



夏の風物詩「皇居千鳥ヶ淵 灯ろう流し」に 学生サポーターとして本学の学生が参加

7月24日、25日(25日は雷雨により灯ろう放流は中止)に本学からほど近い千鳥ヶ淵において、千代田区・一般社団法人千代田区観光協会主催の「皇居千鳥ヶ淵 灯ろう流し2024」が開催され、本学の学生が学生サポーターとして参加した。



©一般社団法人千代田区観光協会

平和への願いを込めた灯ろう

「皇居千鳥ヶ淵 灯ろう流し」は、人々の感謝や希望、平和への願いを込めた灯ろうをお濠に流すもので、今年は例年より多くの外国人観光客の来場が見込まれることから、一般社団法人千代田区観光協会より依頼を受け、本学からも学生を派遣した。また、個別に依頼を受け、本学の吉田はるかさん(国際経営学科3年次生)が両日、日本語と英語で総合アナウンスを務めた。

当に分かれ、来場者のサポートを行った。参加した学生は「外国人観光客の方々へ道案内やイベントの説明を行いました。少しでも日本と世界をつなぐ架け橋となれたらと思い参加しました」(都市文化デザイン学科3年次生/市原まりかさん)、「手持ち提灯の組み立てに苦戦される方が多く、英語で説明を行いました。自身の英語力を高めるためにも、今後も積極的にTOEIC®などを受験していきたいと思います」(国際経営学科3年次生/横尾柊多さん)と感想を語った。

24日は5名、25日は7名の学生が参加。それぞれの担



英語や中国語を生かして来場者をサポート



会場アナウンスを務めた吉田はるかさん

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定

詳細は3面

附属高校吹奏楽部が、迎賓館赤坂離宮 50周年記念イベントで演奏を披露

6月23日、附属高等学校吹奏楽部は、迎賓館赤坂離宮の開館50周年を記念するイベント「四谷に響け! 迎賓館赤坂離宮 高校生による吹奏楽野外コンサート」に招かれ演奏を披露した。



迎賓館赤坂離宮の前庭で演奏

1974(昭和49)年に国の迎賓施設として開館して以来、今年で50周年を迎える迎賓館赤坂離宮(東京都港区)。今回の企画は50周年記念事業の一つとして開催され、本校吹奏楽部は、これまでの演奏会や野球部の応援演奏での実績が認められ、演奏を披露することになった。

どの行進曲や「マツケンサンバ」など多彩な曲目を披露。力強く元気な演奏、そして、華やかなパフォーマンスで観客を魅了した。吹奏楽部に所属する松谷夏也子さん(3年生)は「開館50年という貴重な機会にみんなで演奏できとても良い経験になりました」と感想を語った。

当日は、吹奏楽部の部員53名と卒業生3名の総勢56名が演奏に臨んだ。途中、雨が降る場面もあったが、大勢の観客に見守られながら、荘厳な音色の「威風堂々 Brass Rock」な



力強い演奏を披露した附属高校吹奏楽部

20年ぶりの新紙幣発行

2024年7月3日、20年ぶりに新紙幣が発行され、一万円札の肖像画には、二松学舎第三代舎長であり「近代日本経済の父」として知られる渋沢栄一が採用された。これに伴い、九段1号館地下2階展示スペースでは渋沢栄一と本学創立者である三島中洲との交流をまとめた記念展示を12月24日まで行っている。

なお、11月30日には学校法人二松学舎主催で毎年開催している「『論語』の学校-RONGO ACADEMIA-」で、渋沢史料館館長の桑原功一氏を講師にお迎えする。詳細は本学ホームページでご確認ください。



渋沢栄一の書簡などを展示

名誉教授称号授与

本学の教学運営に多大な貢献をした以下5名に、4月1日付で名誉教授の称号を授与した。

◆ 鈴木 朝生氏 (専門: 政治思想史、政治学基礎概念、ヨーロッパ研究)

1992年10月、国際政治経済学部助教授として着任。1996年4月教授に昇任した。2005年4月から6年間国際政治経済学部長、2009年4月から2年間大学院国際政治経済学研究科長を兼任。教育面では、「ゼミナール」をはじめ「政治学原論」、「政治思想史」などの授業科目を担当、大学院国際政治経済学研究科では「近・現代イデオロギー研究」などを担当した。

◆ 河原田有一氏 (専門: アメリカ法)

1993年3月、国際政治経済学部助教授として着任。1996年4月教授に昇任し、在職期間中は学生委員、キャリアセンター委員などを長年担当した。教育面では、「ゼミナール」をはじめ「外国法Ⅰ/Ⅱ」、「外国書研究(法律)」などの授業科目を担当、大学院国際政治経済学研究科では「国際訴訟法研究」などを担当した。

◆ 高野 和基氏 (専門: 現代日本政治史、地域政治論)

1997年4月、国際政治経済学部助教授として着任。2000年4月教授に昇任し、2001年4月から4年間国際政治経済学部入試委員長、2011年4月から2年間学務局長、2015年4月から4年間副学長を務めた。教育面では、「ゼミナール」をはじめ「政治学」、「日本政治論」などの授業科目を担当、大学院国際政治経済学研究科では「現代日本政治研究」などを担当した。

◆ 岩崎 愛一氏 (専門: 素粒子物理学)

1988年4月、文学部専任講師として着任。1993年4月に助教授、1995年4月から国際政治経済学部部に所属し、1997年4月教授に昇任した。2005年4月から4年間情報センター長、2016年以降は学生委員を務めた。教育面では、「ゼミナール」をはじめ「宇宙科学」、「基礎数学」など主に総合教養科目を担当した。

◆ 林 謙太郎氏 (専門: 日本語学)

1988年4月、文学部助教授として着任。1996年4月に教授に昇任、2008年4月から1年間図書館長、2019年4月から2年間国文学科主任を務めた。教育面では、「ゼミナール」をはじめ「日本語の構造」、「日本語学演習」などの授業科目を担当、大学院文学研究科では「日本語学演習」などを担当した。

永年勤続表彰

10月10日付で以下6名を永年勤続者として表彰した。(敬称略・50音順)

30年表彰		15年表彰	
大学職員	中原 敬二 山口 朗	大学教員	岩田 幸訓
附属高等学校教員	野木 繁	大学職員	奥野 光
		附属高等学校教員	友松 基

二松学舎賛助員称号授与

学校法人二松学舎では、二松学舎教育研究振興資金の高額寄付者を表彰している。本年は、2023年度寄付者のうち本学の所定累計額(100万円以上500万円未満)に達した1名に、10月10日付で二松学舎賛助員の称号を授与した。(※ご本人の希望により、匿名とさせていただきます。)

「二松学舎教育研究振興資金」(寄付)のお願い

学校法人二松学舎では、「二松学舎教育研究振興資金」の寄付金募集を行っております。寄付金は用途を指定することができ、さらに、税制上の優遇措置が受けられます。(確定申告のお手続きが必要です。)

お申し込み方法の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。ホームページからクレジットカード・ネットバンキングなどで直接申し込みが可能です。スマートフォンで右下のQRコードから簡単にアクセスできます。または、下記にご連絡いただければ、専用振込用紙をお送りいたします。

何とぞ、募金活動の趣旨をご理解いただき、格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



お知らせ

学校法人二松学舎への多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。ご寄付賜りました個人および企業・団体・法人のご芳名を、学校法人二松学舎のホームページ「寄付者芳名録」に掲載しておりますのでご確認ください。なお、お名前の掲載を辞退されたい場合は、お手数ですが企画・財務課までご連絡ください。

企画・財務課 ☎ 03-3261-1298 (月～金 9:00～16:30)
✉ k-zaimu@nishogakusha-u.ac.jp

人事

2024年10月1日付

新任・大学職員

- 神本 一喜 (教学事務部教務課)
- 森 慎晟 (教学事務部入試課)

東東京大会ベスト4 甲子園にあと一步届かず

7月27日、第106回全国高等学校野球選手権大会東東京大会の決勝進出をかけた試合が明治神宮野球場で行われ、附属高等学校野球部は関東第一高等学校と対戦。準決勝は全校に応援を呼びかけ、生徒、保護者、関係者が一丸となって選手たちを応援するも残念ながら6対1で敗退。甲子園には届かなかった。

ノーシードから挑んだ今大会は、と

ても厳しい戦いではあったが、ベスト4まで勝ち進み、二松学舎に一体感と多くの感動を与えてくれた。



「オール二松学舎」で挑んだ準決勝

2024年夏の OPEN CAMPUS を開催!!

7月21日、8月4日、25日にオープンキャンパスを開催しました。暑い中多くの方にご来場いただきました!

吾輩もお出迎えしたニャ

各学科で模擬授業を開催

大人気企画「学生と話そう! コーナー」

クラブ・サークルの活動紹介も

特別企画 体験型謎解きイベント

2025年度 新たな入試が加わりました

総合型選抜

NEW (文学部)
中国文学科第一志望者向け!
中国文学科総合型(小論文型)
出願期間: 9/11 ~ 9/24
試験日: 10/5

NEW (文学部)
年内合格のラストチャンス!
総合型選抜Ⅲ期(文章読解型)
出願期間: 11/18 ~ 12/9
試験日: 12/15

NEW (文学部)
書道実技で勝負!
中国文学科総合型(書道実技型 後期)
出願期間: 11/18 ~ 12/9
試験日: 12/15

一般選抜

追加 (文学部)
選択科目に日本史・世界史が追加
一般選抜B方式(前期2科目型)
出願期間: 2025年1/6 ~ 1/22
試験日: 2/2

NEW (文学部)
英語外部試験スコアの換算点を利用
一般選抜E方式(英語外部試験利用型)
出願期間: 2025年1/6 ~ 1/22
試験日: 2/3

NEW (国際政治経済学部)
共通テストの結果を活用
一般選抜C方式
(大学入学共通テスト利用 中期)
出願期間: 2025年2/3 ~ 2/19



入試の詳細は受験生サイトをご確認ください!
入試課: ☎ 03-3261-7423
(月～金 9:00～16:30)

今回のオープンキャンパスは... **11/4(月・休)** 学園祭同時開催!

NISHOインフォメーション

FD・SD実施報告



対面とオンラインで開催(FD)

学校法人二松学舎では、大学教員が教育内容・方法などを改善し、向上させるための組織的な取り組みであるFD(Faculty Development)と、全ての教職員を対象に大学運営に必要な知識・技術を身に付け、能力・資質を向上させるためのSD(Staff Development)を定期的に行っている。

2024年7月20日はFDの一環として全教員を対象とした研修会をオンライン併用で開催。大阪大学

全学教育推進機構の中村征樹教授による「研究不正等を防止するための研究倫理や、研究機関が取り組むべき事柄」をテーマに講演が行われた。

また、9月11日はSDの一つである階層別研修を開催。本学と、大妻女子大学の職員を対象とした合同研修を行い、株式会社フォブレーンの佐々木朋子氏を講師に迎え、「学校職員のための対話力向上研修」と題した研修を行った。

今後もこうした取り組みを計画的に実施していく。



対話力の必要性を伝える佐々木朋子氏(SD)

「国語(古典)講習会」が5年ぶりに再開@茨城県

2024年8月8日、本学主催の「国語(古典)講習会」(茨城県教育委員会、水戸市教育委員会後援)がホテルレイクビュー水戸で開催された。この取り組みは、茨城県内の中学校、高等学校の国語科教員、特別支援学校教員、小学校教員を対象に、本学の教育研究活動を広く社会に還元することで、茨城県内における国語教育の向上を図ることを目的に10年前から始まった講習会で、5年ぶりの開催となった。

講習会は、教職課程センター長矢持昌也教授の開会の挨拶から始まり、文学部中国文学科の伊藤晋太郎教授が「関羽と孔子-聖人に肩を並べた三国志の英雄」をテーマに講演し、茨城県内の中学校、高等学校の国語科教員を中心に52名が参加。講習会に参加した教

員からは、「久しぶりに三国志に触れることができ大学時代に戻ったような楽しい時間でした」(本学卒業生教員)といった声が聞かれた。

講習会後は、本学の卒業生教員を対象とした茨城県教員の会の総会および情報交換会(茨城県教員の会主催)が行われ22名が参加。教員同士はもちろん、本学の教職員を交えた情報交換、交流の場となった。



三国志をテーマとした講演

柏キャンパス改修工事



柏1号館前の路面舗装

柏キャンパスでは、教育環境整備のため施設設備の改修工事を行っている。昨年の柏1号館1・5階に続き、今年は、2・4階の廊下壁や床の改修のほか、耐震性強化のため窓枠・ドアの交換を行った。また、経年劣化が目立つ1号館前の路面の舗装工事や、大学グラウンドのフェンスの張り替えおよび塗装・修繕工事を行った。

その他、今年度中に附属柏中学校・高等学校の屋上に太陽光発電設備の設置が予定されており、今後も環境問題にも配慮しながら、教育環境の整備を順次進めていく。

附属高校書道部 奉納揮毫

附属高等学校書道部が9月21日、和プロジェクトTAISHI主催「第8回9.21世界平和の祈り」に参加し、靖国神社で奉納揮毫を行った。この催しは、国際連合が定める国際平和デー(9月21日)に、靖国神社をはじめとする全国の護国神社と広島平和記念公園および長崎平和公園で、世界平和を書に込めて祈念するもので、今年は全国48の護国神社と49の高校が参加。本校書道部の参加は5回目となる。

当日は、本校の校訓の一つ「仁愛」と論語の章句「子曰はく己に克ちて礼を復むを仁と為す 一日己に克ちて礼を復めば 天下仁に帰す 仁を為すは己に由りて人に由らんやと」を書道部10名で書き上げた。

生徒たちの作品は、11月16日まで靖国神社の遊就館に展示されている。



校訓と論語の章句を書き上げた生徒たち

第二回 二松学舎大学書道會展を開催

「第二回 二松学舎大学書道會展」が東京銀座・鳩居堂第二画廊(4階)で7月30日～8月4日に開催された。副学長で文学部中国文学科の福島一浩教授が運営の中心となり、一般の方に広く二松学舎の書道に触れてもらうことを目的に行われている。

当日は、本学の書道担当教員と、本学で書を研鑽した高等学校書道教員、書塾指導者、また、書壇で活躍している卒業生による作品が展示された。6日間で計630名の来場者を迎え、盛況のうちに幕を閉じた。



書道會展の様子

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定

全学部共通の2年次必修科目「データサイエンス入門」で構成される本学のプログラム「データサイエンス・AI入門プログラム」が、本年8月27日付で文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定された。この認定制度は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する能力を育成するため、数理・データサイエンス・AIに関する知識および技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程(教育プログラム)を文部科学大臣が認定および選定

して奨励するもの。今後も定期的に自己点検・評価を行い、検証と改善を図っていく。

詳細は右記QRコードへ。

詳細はこちら



(認定の有効期限: 令和11年3月31日まで)

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。

山田安之氏(元理事長)

2024年5月3日逝去。満85歳。
(1990年～2005年在職) 学校法人二松学舎評議員及び理事を歴任後、理事長を務めた。

酒井英男氏(客員教授)

2024年6月24日逝去。満99歳。
(1992年～1996年在職) 国際政治経済学部教授として着任後、在任中は入試委員、学生委員等を務めた。

設置校 NEWS

このコーナーでは、大学、附属高等学校、附属柏中学校・高等学校でのさまざまな行事や学生・生徒の皆さんの様子をピックアップしてお届けします！

大学

6月16日

文化祭「九段祭POP2024」を開催



「翠緑」をテーマにしたフотスポット

二松学舎大学では、6月16日に「九段祭POP2024」を開催した。九段祭POPとは、本学で活動するクラブやサークルが、日頃の成果を発表する学内向けの文化祭で、4月に入学した1年次生の初めての発表の場でもある。

今年度は「翠緑」をテーマに掲げ、「緑に色づいた葉に雨が滴る、あるいは混じり気のない翠のように今泡沫の情景を心に書き記そう。」というコンセプトのもと開催された。

狂言研究会や落語研究会、文芸部と



文芸部の展示の様子

いった歴史ある団体はもちろん、近年人気のダンスやアカペラ、国際ボランティアといった多くの団体が展示や発表を披露した。この九段祭POPを通して学生は、これまでの活動の成果発表の場としてももちろん、学内のさまざまなクラブ・サークルを知り、学生同士の仲を深める良い機会となった。また、この九段祭POPは毎年、学生会執行委員会が企画・運営の中心となり活動しており、各団体の調整のほか、毎年恒例のピンゴ大会やかわいらしい飾りつけのフオトスポットを設置するなど、九段祭POPを盛り上げた。

今後は、11月3日・4日に開催が予定される学園祭「創縁祭2024」に向けて各団体は、準備を進めていく。



受付の様子

お知らせ

二松学舎大学 学園祭「創縁祭2024」

開催日 11月3日(日)・4日(月・休)
場所 九段キャンパス1・3号館
※詳細はHPでご確認ください。

附属高校

7月22日～25日

夏期講習会を実施



講習会の様子

夏休みのスタートと同時に附属高等学校では、希望者を対象とした夏期講習会を7月22日～25日の4日間実施した。

この夏期講習会は、冬休み期間中に実施する冬期講習会と共に毎年実施しており、今回の夏期講習会では5教科34講座(総コマ数174コマ)を開講し、延べ742名が受講した。

講座の種類はさまざまで、入試対策のほか、通常授業の予習・復習となるもの、夏休み後半に実施される2年生勉強合宿や1年生勉強会と連動する内容のものなどが開講された。なかでも、「キラメキ数学(数学IA復習)」や「時制もう一度! Basic(英語)」といった通常授業の復習となる講座が人気で、1年生の多くが受講した。

また、学年を問わず受講可能な講座も設けられており、3年生と一緒に大学の入試問題を扱う講座を受講する2年生の姿も見られた。講座によっては、いつもの授業と違う教員から授業を受けることになるが、生徒たちは新鮮な気持ち

で、前向きに講習に参加していた。

講習会は4日間という短い期間ではあったが、生徒たちは自分自身の苦手分野を洗い出し克服するための、また、夏休み期間中に自身で学習計画を立て勉強を進めていくための良い機会となった。



ホールに掲示された時間割

附属柏高校

7月6日

大学での学びを体験 「高2 分野系統別模擬授業」

附属柏高等学校は、進路ガイダンスの一環として「高2 分野系統別模擬授業」を実施した。これは、大学教員を講師に迎え、生徒たちが興味のある分野の授業を実際に体験できるもので、文理17分野(①法律・政治学、②経済学、③経営・商学、④国際関係学、⑤社会学、⑥語学・外国語、⑦史学・歴史、⑧心理学、⑨教育学、⑩文学、⑪栄養学、⑫機械工学、⑬建築工学、⑭情報工学、⑮生物・バイオ、⑯薬学、⑰看護)の中から自由に選択し2つの模擬授業を体験。二松学舎大学をはじめ全17大学の教員が模擬授業を行った。

本学からは文学部国文学科の五月女肇志教授が「映画『ちはやふる』と古典和歌」と題した文学の模擬授業を行い、映画のタイトルの由来でもある在原業平の和歌を題材に、最新の研究を踏まえ



五月女肇志教授による文学の授業



真剣に授業に臨む生徒たち

解説。国文学の研究手法や、古典和歌の魅力を伝えた。その他、心理学では「心を測る～心理テストのさまざま～」、国際関係学では「民主的な国ってどんな国?～ウクライナ・ロシア戦争、イスラエル・ガザ戦争の背景を考えてみよう～」、経営・商学では「社会や企業の裏側をのぞいてみよう」など、内容も多岐に渡り、生徒たちは熱心に授業に参加していた。

社会学の「社会学から考える2つの成長～社会的存在としての人間～」を受講した生徒は、「社会学という分野は、複雑で堅苦しいものだと思っていましたが、予想していたよりも面白く新たな発見がありました」と感想を語った。

今回の模擬授業は、大学での学びをイメージし、これから本格化する受験の前に自身の目指す進路を考える貴重な機会となった。

附属柏中学校

6月8日

身近な自然環境から学ぶ 中1「沼の教室」



押しゴミ&SUP体験チーム

附属柏中学校では、総合学習の時間を利用した体験教室「自問自答プログラム」のひとつに、中学1年生を対象とした「沼の教室」を行っており、今年6月8日に実施した。

生徒たちは「生き物探索チーム」「押しゴミ&SUP体験チーム」「野鳥探索チーム」「農業&草木染め体験チーム」の4つのコースに分かれそれぞれアクティビティを体験した。

「生き物探索チーム」は自然観察池に

生息する多様な生き物を見つけ、スケッチしながら生き物たちの住環境を理解し、人間との共生についてを学び、「押しゴミ&SUP体験チーム」は陸からのゴミとSUPに乗って水上から集めたゴミでアート制作を行い、制作を通してそのゴミがどうして出てきたのかを考察した。

また、「野鳥探索チーム」は、我孫子野鳥を守る会の指導の下、バードウォッチングを通してなぜ手賀沼に野鳥が集まるのか、また、手賀沼の環境についてクイズ形式で学びながら、野鳥に親しみ、生き物と共存するために大切なことを学び、「農業&草木染め体験チーム」は、ブルーベリーを加工し草木染めを体験したり、落ちたブルーベリーを拾って農地整備を行ったりするなど、それぞれ楽しみながら手賀沼の生態系や環境問題について学んだ。



野鳥探索チーム



農業&草木染め体験チーム



生き物探索チーム

世界に 飛び出そう! 海外語学研修

夏休み期間中、各設置校で希望者対象の海外語学研修が行われました。外国語の力を伸ばすきっかけになったことはもちろん、勇気を出して一歩踏み出したことで得た学びや気づきがあったはず。その一部を紹介します。

附属高校 オーストラリア・スタディーツアー

期間 8/10~22 参加人数 1・2年生21名 研修先 ケドロン高校

ホームステイをしながら、ケドロン高校で英語やオーストラリアの文化を学びました。芸術や食を通してオーストラリアの先住民文化についても学びました。



渡航前は不安と緊張でいっぱいでしたが、2週間の留学経験が自分にとってかけがえのないものになりました。

ほきもとゆうた
保木本優太さん
(附属高校1年生)



附属高校・附属柏高校合同 台湾語学研修

期間 8/16~22 参加人数 附属高校:1・3年生6名 附属柏高校:1~3年生3名 研修先 中国文化大学

二松学舎大学の海外協定校・中国文化大学での語学研修や文化体験、現地大学生との班別研修、台湾の観光地を巡り、学んだ中国語を実践の場で生かしました。



中国語の発音や会話の勉強をしました。日本語と同じ漢字でも読み方が全く違うので、話すのが難しかったです。



みたあかね
三田菫さん(附属柏高校1年生)

附属柏中学校・高校 カナダ研修

期間 7/8~19 参加人数 中学3年生15名、高校1・2年生2名 研修先 ブリティッシュコロンビア大学

ブリティッシュコロンビア大学の学生寮に滞在し、英語を学びました。午前中は学内で世界が抱える社会問題を考え、午後は校外学習でその取り組みを視察しました。

文化、気候、歴史などカナダと日本の違いについて英語で学び、とても有意義な時間となりました。

もりやましようた
森山将汰さん(附属柏中学校3年生)



附属柏中学校・高校 オーストラリア研修

期間 7/22~8/4 参加人数 中学2年生7名、高校1~3年生21名

研修先 シャブストン・インターナショナル・カレッジ(プリズベン校)

ホームステイをしながら、語学学校で英語と、オーストラリアの自然や動物保護を中心に社会課題を学びました。コアラやカンガルーとも触れ合いました。



大学 アメリカ 短期語学研修

期間 8/8~9/1 参加人数 文学部1年次生1名、国際政治経済学部2・3年次生3名

研修先 サンフランシスコ州立大学

ホームステイをしながら、サンフランシスコ州立大学で英語を学びました。午前中は学内で英語を学び、午後は現地のサポート学生との観光などを通して英語力を磨きました。



ホストファミリーや留学先で出会った人たちの思い出は宝物です。初海外でしたが、今回の留学が大きな自信につながりました。

さいとう ゆず
斉藤柚子さん
(国際経営学科2年次生)

附属柏高校 イギリス短期留学

期間 7/19~8/3 参加人数 高校1~3年生18名 研修先 ラグビー校

ラグビー校の寮に滞在し、英語を学びました。2日に一度校外学習に出かけ文化学習を行いました。文化の違いや多様な価値観、歴史に触れることができました。



大学 韓国 短期語学研修

期間 8/6~22 参加人数 文学部2・3年次生3名 研修先 建国大学校

建国大学校の学生寮で生活しながら、韓国語を学びました。週末は現地のサポーターが開催するソウルツアーに参加するなど、文化理解を深めました。



現地の人と韓国語で会話をしたり、テレビや映像でしか見たことのない景色を自分の目で見る事ができうれしかったです。

いしやまかいと
石山魁士さん(中国文学科2年次生)

体育祭特集

競技を通してクラスの団結がより深まる体育祭。中学・高校生活の大切な思い出のひとつになりました。

附属高校

開催日 6月19日
場所 武蔵野の森スポーツプラザ
学年優勝 3年C組、2年A組、1年G組

各クラス、Tシャツと団旗を制作して挑む体育大会。それぞれの競技を通してクラスの団結がより一層深まりました。



▲今大会のスローガンは「Break through~実力を突き破れ!~」

▼各クラス趣向をこらした団旗



▼クラスTシャツで団結



▲柏集中体育で特訓した成果は?

附属柏高校

開催日 5月24日
場所 柏キャンパス内グラウンド
総合優勝 赤組

3学年混合で赤・白・青の3色の組に分かれて戦い、学校全体が白熱した雰囲気になりました。

▼棒引き



▲運動会といえばリレー

附属柏中学校

開催日 5月24日
場所 柏キャンパス内グラウンド
優勝 赤組

二人三脚や台風の目、ムカデ競争、大玉転がしなど、みんなで協力する競技が多く、勝ち負け以上に大きな成長を感じました。



2人でゴールを目指す
▼赤組、おめでとう!



チーム力が試される
ムカデ競争



▲頑張る生徒たちを先生も応援

夏休み子ども研究会

2024年8月5日

小学4・5・6年生対象 森田正光氏in二松学舎を開催

主催 二松学舎大学 後援 千葉県柏市・柏市教育委員会

二松学舎大学では2016年より、地域文化振興の一環として、千葉県柏市内の小学生および保護者を対象とした「夏休み子ども研究会」を実施している。

8回目を迎える今年は、気象予報士でお天気キャスターの森田正光氏(株式会社ウェザーマップ会長)を講師に招き、本学柏キャンパスで8月5日に実施。柏市内の小学4・5・6年生とその保護者計163名が参加した。

前半は、森田氏と共に、気象予報士でお天気キャスターの三ヶ尻知子氏がアシスタントを務め、天気に関する実験やクイズが行われた。ペットボトルを利用した雲を作る実験や竜巻の原理を知る実験では、会場内から希望者を募り実際に体験してもらうなど、会場内は大いに盛り上がった。また、実験を通して森田氏からは、身近なものでも天気の仕組みが理解できることや、観察・観測の大切さなど、参加する小学生に向けた自由研究のコツも語られた。

後半は、森田氏による「地球温暖化」についての



森田正光氏と三ヶ尻知子氏による実験



優しく語り掛ける森田正光氏

講演が行われ、どうしたらこの地球温暖化を食い止めることができるのか、私たちに何ができるのかという観点で森田氏の見解が語られた。

森田氏のユーモアたっぷりなお話、会場内の小学生はもちろん保護者の方たちも聞き入り、終始和やかな雰囲気の中で講演が終了した。

イベント当日は、開催に際して本学の佐藤晋学長、附属柏中学校・高等学校の七五三和男校長が挨拶、その後、附属柏中学校・高等学校吹奏楽部によるウエルカム演奏や中学2年生4名によるSDGs体験学習「手賀沼ゴミアートプロジェクト」の発表が行われ、参加した小学生とその保護者に本学および附属柏中学校・高等学校の学びや部活動を知ってもらう良い機会となった。



ペットボトルで雲を作る実験

私の一冊

#51



今を生きる思想
ジョン・ロールズ
誰もが「生きづらくない社会」へ

玉手慎太郎(著)
講談社現代新書、2024年

国際政治経済学部 国際政治経済学科 専任講師 古田 拓也

初めて算数を習ったとき、5から3は引けるけど、3から5は引けませんと教わりました。しかし後からマイナス記号ができました。あのとき先生は嘘をついたのでしょうか。そうとも言えません。最初からマイナス記号を教えてしまえば、小学生は混乱してしまうでしょう。何事にも段階があるのです。

政治における「正義」にも同じことが言えます。「正義」は人それぞれだから、お互いの意見を尊重しましょう。そう習った人も多いかと思います。これはまだ小さな生徒に自分の意見を相対化してもらうための大事な教えです。しかし3から5は引けないという教えと同じく続きがあります。考えてみれば、「お互いの意見を尊重しましょう」の部分は全員が守ることを期待されています。人それぞれではすまない部分のはずです。さてそこを何と呼べばよいでしょうか。

実は決まった呼び方があります。「正義」です。正義という言葉は、人それぞれの部分ではなく、こちらの共通部分に使うための言葉なのです。その共通部分の中身を探求したジョン・ロールズという政治哲学者がいます。上に挙げた本は、そのロールズを分かりやすく解説し、正義を考える道を示してくれます。言い換えると、マイナス記号があるという次の段階を教えてくれる素晴らしい本なのです。

クローズアップ
-附属高校-

学習習慣の定着を目指す
放課後学習支援がスタート

松ぼっくり

附属高等学校は、2024年4月より1年生を対象とした放課後学習支援「松ぼっくり」をスタートしました。進路部主任の神戸竜二先生にお話をうかがいました。

Q. 「松ぼっくり」とは何ですか？

A. 今年4月から新たにスタートした1年生対象の放課後学習支援です。進路の早期化が進む昨今、1年生のうちから進路に向けたサポートをしてあげたい、また、2・3年生と進路に対する意識を持ち続け、より高い目標を目指してほしいという思いがあります。「松ぼっくり」は自学自習を支援することが目的ですから、何を勉強しても構いません。授業の予復習や定期テストの勉強、検定試験の勉強など自由に学習できます。ちなみに「松ぼっくり」という名前は、1年生を担当する教員が名付けました。親しみやすく本校らしい名前です。

Q. 利用の仕方を教えてください。

A. 入学時のガイダンスで1年生全員に発行する利用カードで入退室の管理をします。二松学舎大学九段キャンパス5号館の教室を利用し、授業期間中の平日15時～18時に開室しています。また、部活動で参加できない生徒向けには「オンライン松ぼっくり」も開室しています。料金はどちらも無料です。

Q. 生徒にとってのメリットは何ですか？

A. 常駐している現役大学生(メンター)の存在

ではないでしょうか。彼らは難関大学に通う優秀な学生たちで、生徒たちの学習面をサポートしてくれています。リアルな大学生活や自身の受験体験を話してくれるなど、生徒と年の近い彼らだからこそできるサポートがあります。また、定期的で開催されるイベントも好評で、これまで定期テスト直前対策、模擬試験の振り返りイベントなどが開催されています。



Q. 今後、期待することは？

A. 生徒たちには、早いうちから「勉強の習慣」を身に付けてほしいと思っています。本校は約90%の生徒が部活動に加入しており、多くの部活動の引退は3年生になってからになります。もう少し早く受験勉強を始めていけば…と後悔しないためにも、「松ぼっくり」に通うことで日々の学習習慣を身に付けてほしい、そして、現役大学生との触れ合いやイベントを通して、受験や将来を考えるきっかけになればと期待しています。

NISHO
Activity Report

学業や課外活動に励む学生・生徒を取り上げるこのコーナー。今回は、短歌分野で活躍する学生を紹介します。

大学 新人歌人の登竜門
「短歌研究新人賞」を受賞

本学文学部国文学科4年次生の工藤吹さん(ペンネーム)が、新人歌人の登竜門として知られる短歌研究社主催の第67回「短歌研究新人賞」を受賞した。工藤さんは「思い返すと、コンテンポラリーダンス(朗読と身体表現)や俳句の実作、中国の妖怪について調べる授業が面白かったなと思っています。自分が思うより実作や鑑賞が好きなのが分かりました。受賞をきっかけに実作の機会も、読んでもらえる機会も増えて素直にうれしいです」と受賞の喜びを語った。受賞作の「コミカル」(30首)は『短歌研究2024年7月号』に掲載されている。

「短歌研究新人賞」とは

短歌研究社発行の月刊誌『短歌研究』が毎年公募する短歌の新人賞で、新人歌人の登竜門として知られる。未発表の新作短歌30首一連の応募作品を対象に受賞作を決定する。2019年の第62回でも本学の卒業生である郡司和斗さん(受賞時 国際政治経済学部国際政治経済学科3年次生)が受賞している。